

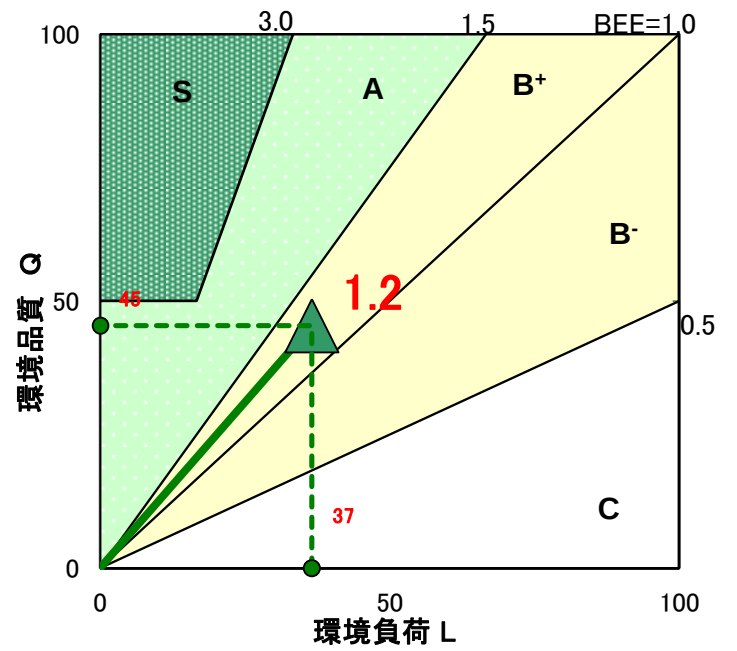
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)アーガス・レーヴ健軍	階数	地上14F		お住まいの環境を向上させてください。
建設地	熊本県熊本市東区若葉2丁目145-1	構造	RC造		
用途地域	近隣商業地域、防火地域	平均居住人員	156 人		
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2016年9月 予定	評価の実施日	2015年3月27日		
敷地面積	1,232 m ²	作成者	安堂 文人		
建築面積	423 m ²	確認日	2015年3月27日		
延床面積	4,075 m ²	確認者	安堂文人		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)





BEE = 1.2

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

66%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



83

	評価点	■ 熊本県重点評価基準												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	97.7	<table><thead><tr><th>判定値 (評価点)</th><th>ランク表示</th></tr></thead><tbody><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></tbody></table>	判定値 (評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値 (評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	61.2													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	82.5													
【重点事項4】 循環型社会の実現	78.3													

※評価点は、100点以上が推奨です。

Page : 1/6

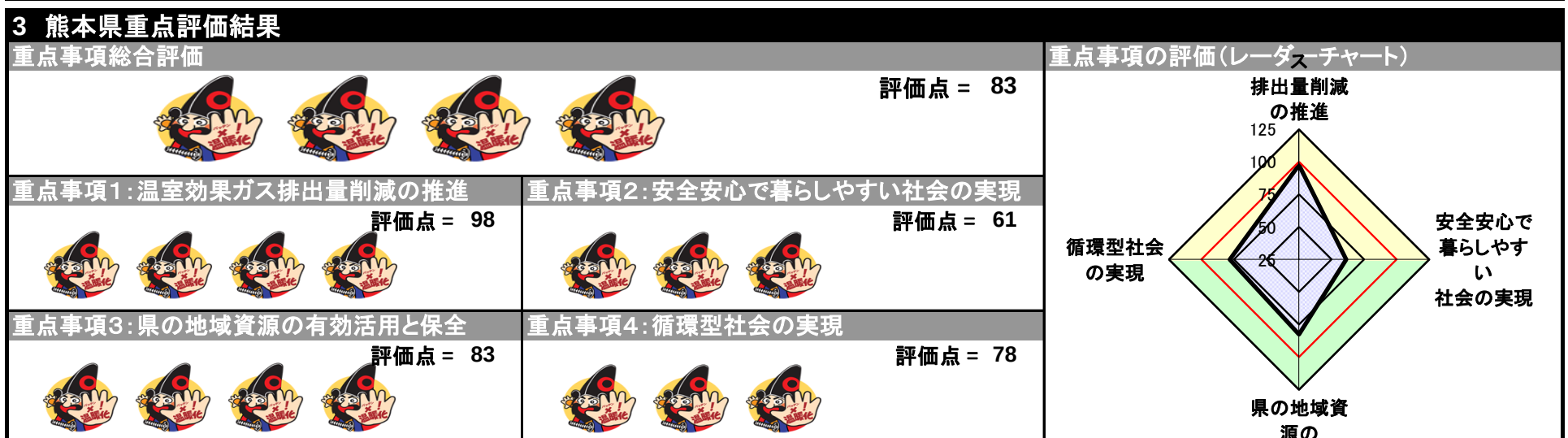
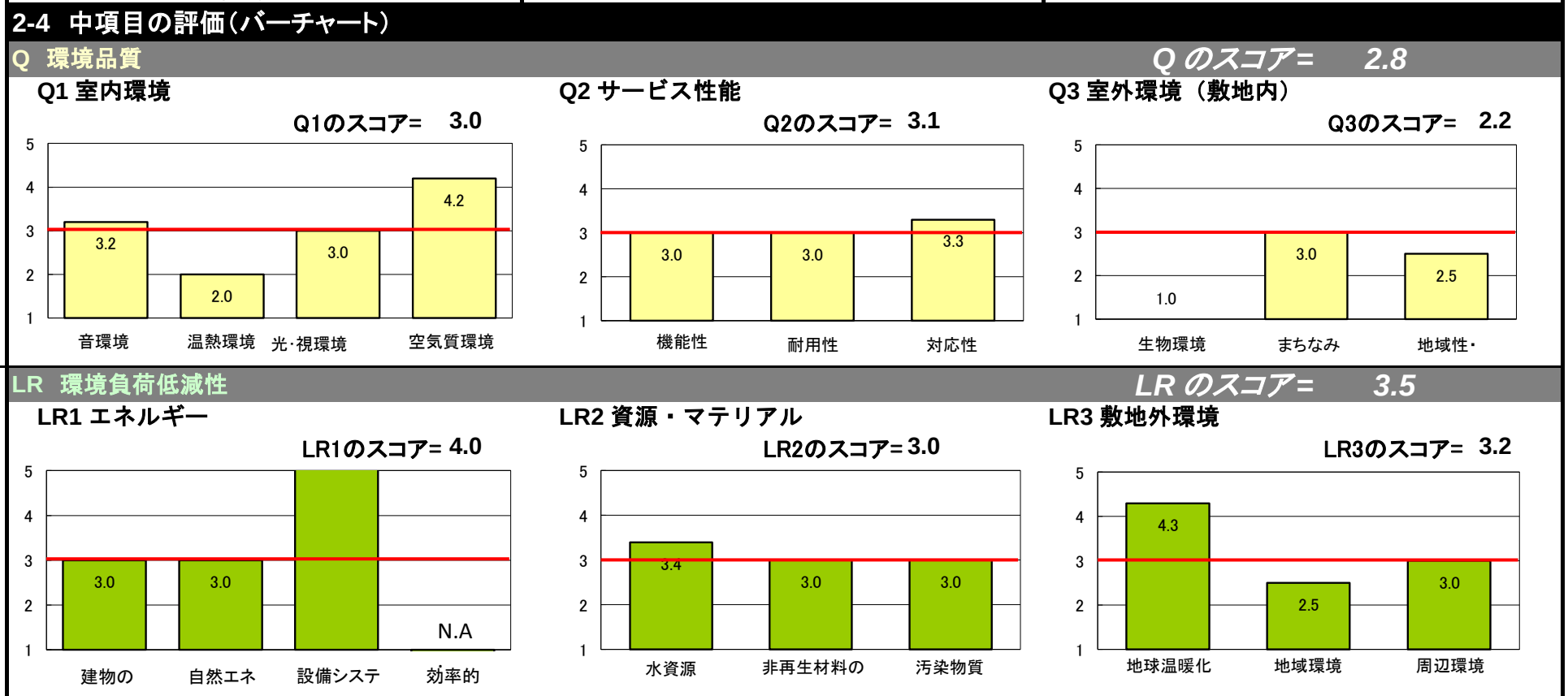
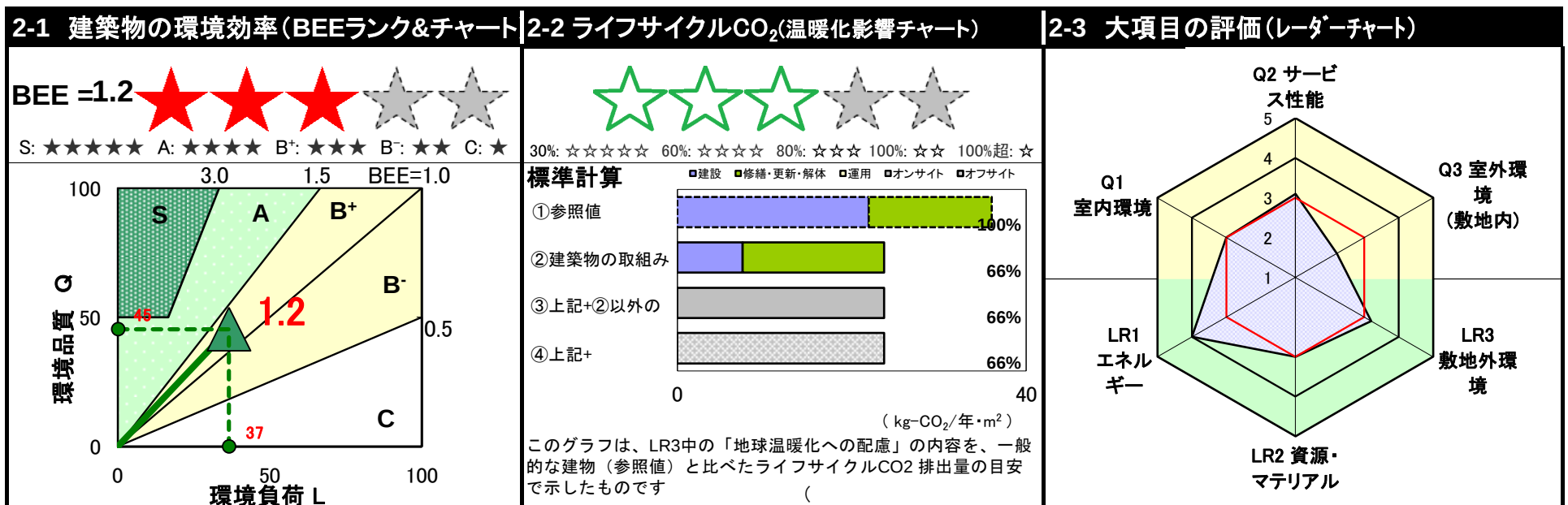
Sheet : 1/5

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年追加版Ver.2（BPI/BEI両方） | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アーガス・レーヴ健軍	階数	地上14F
建設地	熊本県熊本市東区若葉2丁目145-	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、防火地域	平均居住人員	156 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年9月 予定	評価の実施日	2015年3月27日
敷地面積	1,232 m ²	作成者	安堂 文人
建築面積	423 m ²	確認日	2015年3月27日
延床面積	4,075 m ²	確認者	安堂文人



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補 (仮称)アーガス・レーヴ健軍			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPVBEI対応)		■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v				
スコアシート			実施設計段階								
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質									2.8		
Q1 室内環境						0.40			3.0		
1 音環境					3.0	0.15	3.3	1.00	3.2		
1.1 騒音					3.0	0.50	3.0	0.50			
1 室内騒音レベル		3.0			1.00	3.0	0.50				
2 設備騒音対策		-			-	3.0	0.50				
1.2 遮音					3.0	0.50	3.6	0.50			
1 開口部遮音性能		3.0			1.00	5.0	0.30				
2 界壁遮音性能		3.0			-	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0			-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0			-	3.0	0.20				
1.3 吸音					3.0	-	3.0	-			
2 温熱環境							2.0	0.35		2.0	1.00
2.1 室温制御					3.0	0.50	3.0	0.50			
1 室温		3.0			0.63	3.0	0.63				
2 負荷変動・追従制御性		-			-	-	-				
3 外皮性能		3.0			0.38	3.0	0.38				
4 ゾーン別制御性		-			-	-	-				
5 温度・湿度制御		-			-	-	-				
6 個別制御		-			-	-	-				
7 時間外空調に対する配慮		-			-	-	-				
8 監視システム		-			-	-	-				
2.2 湿度制御							1.0	0.20		1.0	0.20
2.3 空調方式					1.0	0.30	1.0	0.30			
3 光・視環境					3.0	0.25	3.1	1.00	3.0		
3.1 屋光利用					3.0	0.30	3.4	0.30			
1 屋光率		3.0			0.60	5.0	0.50				
2 方位別開口		-			-	1.0	0.30				
3 屋光利用設備		3.0			0.40	3.0	0.20				
3.2 グレア対策					3.0	0.30	3.0	0.30			
1 照明器具のグレア		-			-	-	-				
2 屋光制御		3.0			1.00	3.0	1.00				
3 映り込み対策		-			-	-	-				
3.3 照度							3.0	0.15		3.0	0.15
3.4 照明制御							3.0	0.25		3.0	0.25
4 空気質環境					4.2	0.25	4.2	1.00	4.2		
4.1 発生源対策			建築材料をほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用している。		5.0	0.60	5.0	0.63			
1 化学汚染物質		5.0			1.00	5.0	1.00				
2 アスベスト対策		-			-	-	-				
3 ダニ・カビ等		-			-	-	-				
4 レジオネラ対策		-			-	-	-				
4.2 換気					3.0	0.40	3.0	0.38			
1 換気量		3.0			0.50	3.0	0.33				
2 自然換気性能		3.0			-	3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0			0.50	3.0	0.33				
4 給気計画		-			-	-	-				
4.3 運用管理					-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-				
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-				
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.1		
1 機能性					3.0	0.40	3.0	1.00	3.0		
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	3.0	0.60			
1 広さ・収納性		3.0			-	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応		3.0			-	3.0	1.00				
3 バリアフリー計画		3.0			1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	3.0	0.40			
1 広さ感・景観		3.0			-	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		3.0			-	-	-				
3 内装計画		3.0			1.00	3.0	0.50				
1.3 維持管理							3.0	0.30		-	-
1 維持管理に配慮した設計					3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-				
3 衛生管理業務				-	-	-	-				
2 耐用性・信頼性					3.0	0.31	-	-	3.0		
2.1 耐震・免震			品確法の劣化等級3		3.0	0.48	-	-			
1 耐震性		3.0			0.80	-	-				
2 免震・制振性能		3.0			0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数					3.4	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数					5.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新	2.4 信頼性								
	1	空調・換気設備		2.6	0.19	-	-		
	2	給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-		
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-		
	3 対応性・更新性				3.0	0.29	3.4	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり		-	-	3.8	0.50		
	2	空間の形状・自由さ		3.0	-	5.0	0.60		
				3.0	-	2.0	0.40		
	3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50		
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-		
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-		
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-		
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-		
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-		
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-		
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-		
	Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.2
	1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.5	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.0	
1 建物の熱負荷抑制				3.0	0.40	-	-	3.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0	
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-			
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-			
3 設備システムの高効率化			住戸専用部には潜熱回収型給湯器を採用	5.7	0.40	-	-	5.7	
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		#VALUE!	5.0		-				
集合住宅の評価			5.7		-				
4 効率的運用				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-			
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.0	
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4	
1.1 節水		節水コメ、及び節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-			
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	1.00	-	-			
2		雑排水等利用システム導入の有無	3.0	-	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63	-	-	3.0	
2.1 材料使用量の削減		-	3.0	0.09	-	-			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.26	-	-			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.26	-	-			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.07	-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			3.0	0.32	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-			
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-			
1		消火剤	-	-	-	-			
2		発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-			
3		冷媒	3.0	0.50	-	-			
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮			接着剤等有害物質を含まない材料を使用している	4.3	0.33	-	-	4.3	
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5	
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-			
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-			
1		雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-			
2		汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-			
3		交通負荷抑制	4.0	0.25	-	-			
4		廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-			
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-			
1		騒音	3.0	0.33	-	-			
2		振動	3.0	0.33	-	-			
3		悪臭	3.0	0.33	-	-			
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-			
1		風害の抑制	3.0	0.70	-	-			
2		砂塵の抑制	3.0	-	-	-			
3		日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-			
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-			
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-			
2		屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-			

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

道路境界に面した場所に植栽を多く計画し、また建物のベースカラーを落ち着いた印象を与えるアースカラーにすることで、まちなみとの調和と景観に配慮しました。

Q1 室内環境

建築材料は全面的にF☆☆☆☆を採用している。

Q2 サービス性能

躯体材料は、品確法の劣化等級3としている。

Q3 室外環境（敷地内）

住戸数分の駐車場を確保し、居住者の利便性に配慮した。
また、アプローチと駐車場の出入口を離すことで歩車分離を図った。

LR1 エネルギー

照明器具は省エネ効果が高いLED照明を採用した。
給湯設備に関しては、住戸専用部には潜熱回収型給湯器を採用した。

LR2 資源・マテリアル

節水型便所を採用した。
接着剤等は有害物質を含まない材料を使用している。

LR3 敷地外環境

建設・運用でCO2排出量を抑えている。

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)アーガス・レーヴ健軍

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010_kmt2011(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	83.5
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				97.7	0.40	39.08
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.7	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				61.2	0.20	12.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				78.3	0.20	15.66
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.33			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.33			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	0.0	0.00			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.17			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.17			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数